「トランスナショナル／トランスカルチュラルな比較地域研究ー多言語・多文化社会のもとでの新たな大学教育に向けてー」
東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター
2009年2月14日
移民・外国人住民に対する教育制度をめぐるトランスナショナルな視点

エスニック・スタディーズにおけるトランスナショナルな位置取り
A Transnational Perspective in Ethnic Studies

戴エイカ

要旨
トランスナショナルな経験を持つ移民、外国ルーツの人々にとって、どんな教育が望ましいだろうか。アメリカ合衆国のエスニック・スタディーズ、特にアフリカ系アメリカ研究におけるトランスナショナルな位置取りの展開を素描しながら、この問いを考えてみたい。エスニック・スタディーズは、1960 年代末に公民権運動や学生運動の成果として誕生し、マイノリティ主導の研究領域として発展してきた。そこでは、政治運動の主張にそってマイノリティの国民としての位置取りが重要視され、トランスナショナルな研究の発展が遅れた。しかし最近、経済的グローバル化や移民の増加などの影響を受け、エスニック・グループを国家内のマイノリティと捉えるだけでなく、ホームランドや他国とのトランスナショナルなつながりを持ったディアスポラと捉えることが重要になってきた。アフリカ系アメリカ研究はアフリカ地域研究と交錯するようになり、その接点でアフリカン・ディアスポラ研究が立ち上がっている。研究者の多くは、エスニック・スタディーズの政治性を継承し、過去の奴隷制や現在の人種主義をトランスナショナルな視点から分析し、研究の成果を現実問題の克服に結びつけることをめざしている。だが、ナショナルな視点の重要さを主張し、ディアスポラ研究に抵抗する研究者も存在する。シティズンシップが基本的に国籍と結びつき、ナショナルな思考が執拗に浸透している現実にあって、移民や外国籍住民のための教育を考えるとき、トランスナショナルな視点だけを強調するわけにはいかない。双方の視点を取り入れることが大事だろう。そうすることで2つの視点の関係性も明確になるだろう。

1. 移民・外国籍住民をめぐる教育における「トランスナショナルな視点」とは？
    - 教育対象者
        - 移民・外国籍住民＝トランスナショナル
        - 移民・外国籍住民に関わる人々、機関
            - 中央政府、国民、市役所、地域の諸機関、地域の住民、、、
    - 教育・研究者の視点
        - 研究分析・理論の視点
        - 教育がめざす視点
            - 行為主体性、教育・変革主体性はどこにあるのか？
            - 教育者は誰か？　誰が何をめざしているのか？

2. 教育がめざすトランスナショナルな視点
(A) トランスナショナルな文学、芸術、哲学などにおける知の探究
(B) 経済的グローバル化に適応するための知識とスキル
    - 人文科学の衰退と大学の企業化が進行するなかでの教育とは？
    - 生活環境への適応のため、その枠組み内で将来的展望をひらくための教育
(C) 人の国境を越えた移動についての理解と現実の問題の解決（研究アクティビズム）
    - エスニック・スタディーズにおけるトランスナショナルな位置取り
    - ナショナルな問題意識からトランスナショナルな問題意識への展開

3. 「移民・外国籍住民」とは誰か？

法的地位と市民権

国民	シビック・ネーション
	国民の市民権
外国籍者	エスニック・ネーション
	外国籍者の市民権、人権

移動の経緯： 帝国主義、奴隷制、植民地主義、人種主義、、、

ホスト社会で少数者化されたアイデンティフィケーション

ホームランドの多数者としてのアイデンティフィケーション

トランスナショナルなアイデンティフィケーション

4.合衆国におけるエスニック・スタディーズ

シビック・ネーション

エスニック・マイノリティは国籍、市民権を持っている

ナショナルなアイデンティフィケーション

移動の経緯： 旧来のアフリカ系アメリカ人の移動は奴隷制・帝国主義のもとに進行

合衆国内で少数者化されたアイデンティフィケーション

トランスナショナルに？

4.1.アフリカ系アメリカ研究

60 年代末、70 年代初頭の公民権運動、学生運動、第三世界解放運動の成果として誕生

ブラック・スタディーズ運動によって維持、発展

学際的な方法論でアフリカ系の人々の生活経験を様々な視点から包括的に研究

アフリカ系コミュニティの現実の政治問題と学問の結びつきを重要視

4.2. 研究における 2つの緊張関係

1）研究分野、大学の学部組織における2つの流れ

白人系研究者の主導するアフリカ地域研究

黒人系研究者の主導するエスニック・スタディーズ

2）エスニック・スタディーズにおける2つの流れ

国民主義・社会統合（合衆国のエスニック・マイノリティ）

アフリカ中心主義、汎アフリカ主義（ディアスポラ）

学術界での知の生産と政治闘争の関係

1）黒人研究者育成の遅れ

2）アフリカ文化の継承についての論争

フレイジャー（Flanklin E. Frazier） vs. ハースコヴィッツ（Melville Herskovits）

Frazier. 2001(1939). *The Negro Family in the United States*. University of Notre Dame Press.

Herskovits. 1990 (1941). *Myth of the Negro Past*. Boston: Beacon Press.

4.3.アフリカン・ディアスポラ研究の設立

アフリカ系アメリカ研究とアフリカ地域研究の接点で浮上

アフリカ系アメリカ研究のトランスナショナル化、国際化

比較地域研究の発展、地域研究の政治化と流動化の可能性

ナショナルな研究視点の継続

研究領域の設立におけるハリス（Joseph E. Harris）の貢献
65 年タンザニア国際会議
82 年 *Global Dimensions of the African Diaspora*. Howard University Press.
研究領域の確立におけるギルロイ（Paul Gilroy）の影響
93 年 *The Black Atlantic: Modernity and Double Consciousness*. Harvard University Press.

4.4.アフリカン・ディアスポラ研究の発展
最近の発展を促している社会的要因
1）経済的グルーバル化
2）合衆国へのアフリカ系移民の増加
3）コミュニケーション手段の発達
4）アフリカ系アメリカ人の合衆国国民としての地位の確立

4.5.アフリカン・ディアスポラ研究の可能性と内的ヘゲモニー
トランスナショナルな（ディアスポラ的な）位置取り
1）エスニック・スタディーズの政治性をどう継承しているのか？
過去の奴隷制と引き続く人種主義に対するトランスナショナルな批判
国境を越えた連帯感の形成？
2）合衆国のナショナリズムを越えているのか？
合衆国の他国に対する帝国主義についての批判は？
合衆国 のディアスポラのエリートが主導する汎アフリカ主義（帝国主義）？

5.日本在住の「外地」・外国にルーツを持つ人々をめぐる教育
エスニック・ネーション
帰化、国際結婚などによって国籍取得しない限り外国籍
移動の経緯：植民地主義、経済的帝国主義、、、、
アイデンティフィケーション？

5.1.在日コリアンによるエスニック・スタディーズ
学校教育
民族学校（ディアスポラ）
日本の学校内における民族学級（大阪）
民族差別（日本社会のエスニック・マイノリティ、社会統合）
ホームランドとつながる民族（ディアスポラ）
コリア国際学園（越境人、トランスナショナル）

在日コリアンのアクティビズムの場での教育
在日志向（日本社会のエスニック・マイノリティ、社会統合）
コリアン・ジャパニーズ、在日外国人
祖国志向（ディアスポラ）
トランスナショナル（ナショナリズムを越えた）
ワンコリアフェスティバル（アジア市民）
大学教育
東アジア地域研究
多文化教育、エスニック・スタディーズ

5.2. エスニック・スタディーズの比較

アフリカン・ディアスポラ研究・教育

ポストコロニアル（歴史、記憶、市民権、人権）

ナショナルな視点とトランスナショナルな視点の緊張関係

国民主義の克服の難しさ

教育者、教育対象者は主に合衆国のアフリカ系国民

教育の目標が合衆国の国益追求と必ずしも矛盾しない

アフリカ地域研究の流動化？

在日コリアンの研究・教育

ポストコロニアル（歴史、記憶、市民権、人権）

トランスナショナルな視点の確固とした展開と市民権運動に対する同化主義批判

教育対象者の多くは非日本国籍者、教育者は在日コリアン、日本人

教育の目標と3国の国益の関係は？

地域研究の政治化と流動化の可能性

5.3. アフリカン・ディアスポラ研究と在日コリアン教育から学ぶ

教育がめざすトランスナショナルな視点とは？

日本社会に「適応」するための教育？

ホームランドの文化やそのつながりを尊重する教育？

トランスナショナルな生き方を尊重する教育？

グローバル化時代に「適応」するための教育？

行為主体性、教育・変革主体性はどこにあるのか？

「日本人」と「外国人」の関係性

教育内容を充実・発展させるための比較研究

シティズンシップ

ナショナル、ポストナショナル、ローカル、リージョナル、、

人権と市民権

グループ・アイデンティティ

ナショナル、トランスナショナル、ディアスポラ、トランスローカル、リージョナル、、

歴史、記憶、経験、文化実践、、、、

「地域」研究

「グローバル」研究

参考文献

野口道彦、島和彦、戴エイカ 『批判的ディアスポラ論とマイノリティ』 明石書店　2009.

Eika Tai

Between Assimilation and Transnationalism: The Debate on Nationality Acquisition among Koreans in Japan. *Social Identities* 5(5), 2009 (forthcoming).

Festivals as Ritual Assertions for Sustaining Diaspora Communities: Comparing Cases in the USA and Japan. *Obsidian* 9(1): 107-123, 2008.

Korean Ethnic Education in Japanese Public Schools. *Asian Ethnicity* 8(1): 5-23, 2007.